

一票が持つ可能性とは

鈴木綾華 吉田薫平

一体、若者の政治に対する関心が低い理由は何であり、どうすれば関心を高めることができるのだろうか。そのヒントを得るために今回、政治に携わる仕事をしている高田遼平さん（25）に話を聞いた。

「経済的に守られているから、政治の変化が生活の変化に結び付くという実感が湧きにくい」

若者の関心が低い原因について彼はこう分析する。

たとえば、若者の中でも特に学生はその多くが学費、生活費等を親に負担してもらっている。同世代でもすでに所帯をもつ若者と学生との間にある意識や投票率の差もこのことが関係している。

若者が、投票するメリットを感じないのも、原因の一つだという。若者向けの政策が少ないことから関心を得られず投票率が低くなり、さらに若者向けの政策が少なくなるという悪循環がもたらされてしまっている。なぜなら政策は投票率の低い若者の層より高い年配の層のためにつくられるからだ。しかし、為政者側と有権者側双方の努力によりこの悪循環を打開できるだろうと高田さんは予測する。つまり、為政者は若者向けの政策を増やす。若い有権者はそれを促すために自ら票を投じ、更には周囲に投票を呼び掛けていくべきだというのだ。

学生時代高田さんはある政策に共感し、その政策を掲げる政党に自分の一票を投じ、また周囲の人々にも票を投じてもらうように働きかけた。そしてその政策が実際に実現されたことで、彼は投票が一個人の人生を開ける行いだと実感した。

「選挙は投票するだけで終わってはいけない」と高田さんは注意を促す。自分が選んだ人が在任中どのように活動しているかを見守り、それを次の投票に活かすことが重要だという。そうすれば党のイメージや候補者に対する先入観にとらわれずに実績で評価できるからだ。

実績で評価することで本当に実力のある政治家は誰かがわかり、政治の質を上げることにつながる。そのためにも投票率を上げることが重要であると語った。

「たった一人の若者の一票にも現状を変える力がある」そう彼は強く訴える。

*本人の申し出により、仮名を使用しております。